

## 一般相対性理論 演習問題 第 6 回

2243117S 佐野博亮

2024 年 7 月 13 日

I.

まだ

II.

■Riemann テンソル 接続係数は演習問題第 4 回の問 III で求めた通りである。Riemann テンソルの独立成分で、Ricci テンソルの導出に必要なものは 18 成分である。それらを計算すると、非零成分は以下の通りである。

$$\begin{aligned} R^x_{txt} &= -\frac{\ddot{a}}{a}, & R^y_{tyt} &= -\frac{\ddot{b}}{b}, & R^z_{tzt} &= -\frac{\ddot{c}}{c} \\ R^y_{xyx} &= \frac{a\dot{a}\dot{b}}{b}, & R^z_{zyz} &= \frac{b\dot{b}\dot{c}}{c}, & R^x_{zxx} &= \frac{c\dot{c}\dot{a}}{a} \end{aligned}$$

計量  $g_{\mu\nu}$  が対角型であるから、各成分の添字の上げ下げは簡単である。計算の簡単のため、添字を上げる。

$$\begin{aligned} R^{xt}_{xt} &= \frac{\ddot{a}}{a}, & R^{yt}_{yt} &= \frac{\ddot{b}}{b}, & R^{zt}_{zt} &= \frac{\ddot{c}}{c} \\ R^{yx}_{yx} &= \frac{\dot{a}\dot{b}}{ab}, & R^{zy}_{zy} &= \frac{\dot{b}\dot{c}}{bc}, & R^{xz}_{xz} &= \frac{\dot{c}\dot{a}}{ca} \end{aligned}$$

■Ricci テンソル Ricci テンソル  $R^\mu_\nu$  は以下で定義される。

$$R^\mu_\nu = R^{\alpha\mu}_{\alpha\nu}$$

非零成分は以下の通りである。

$$R^t_t = \frac{\ddot{a}}{a} + \frac{\ddot{b}}{b} + \frac{\ddot{c}}{c}, \quad R^x_x = \frac{\ddot{a}}{a} + \frac{\dot{a}\dot{b}}{ab} + \frac{\dot{c}\dot{a}}{ca}, \quad R^y_y = \frac{\ddot{b}}{b} + \frac{\dot{b}\dot{c}}{bc} + \frac{\dot{a}\dot{b}}{ab}, \quad R^z_z = \frac{\ddot{c}}{c} + \frac{\dot{c}\dot{a}}{ca} + \frac{\dot{b}\dot{c}}{bc}$$

■Ricci スカラー Ricci スカラー  $R$  は以下で定義される。

$$R = R^\mu_\mu$$

計算すると、

$$R = 2 \left( \frac{\ddot{a}}{a} + \frac{\ddot{b}}{b} + \frac{\ddot{c}}{c} + \frac{\dot{a}\dot{b}}{ab} + \frac{\dot{b}\dot{c}}{bc} + \frac{\dot{c}\dot{a}}{ca} \right)$$

■Einstein テンソル Einstein テンソル  $G^\mu_\nu$  は以下で定義される。

$$G^\mu_\nu = R^\mu_\nu - \frac{1}{2}\delta^\mu_\nu R$$

非零成分は以下の通りである。

$$G^t_t = -\left( \frac{\dot{a}\dot{b}}{ab} + \frac{\dot{b}\dot{c}}{bc} + \frac{\dot{c}\dot{a}}{ca} \right), \quad G^x_x = -\left( \frac{\ddot{b}}{b} + \frac{\ddot{c}}{c} + \frac{\dot{b}\dot{c}}{bc} \right), \quad G^y_y = -\left( \frac{\ddot{c}}{c} + \frac{\ddot{a}}{a} + \frac{\dot{c}\dot{a}}{ca} \right), \quad G^z_z = -\left( \frac{\ddot{a}}{a} + \frac{\ddot{b}}{b} + \frac{\dot{a}\dot{b}}{ab} \right)$$

■Einstein 方程式 真空の Einstein 方程式は以下で与えられる。

$$G^\mu{}_\nu = 0$$

非零の式は以下の通りである。

$$\frac{\dot{a}\dot{b}}{ab} + \frac{\dot{b}\dot{c}}{bc} + \frac{\dot{c}\dot{a}}{ca} = 0$$

$$\frac{\ddot{b}}{b} + \frac{\ddot{c}}{c} + \frac{\dot{b}\dot{c}}{bc} = 0$$

$$\frac{\ddot{c}}{c} + \frac{\ddot{a}}{a} + \frac{\dot{c}\dot{a}}{ca} = 0$$

$$\frac{\ddot{a}}{a} + \frac{\ddot{b}}{b} + \frac{\dot{a}\dot{b}}{ab} = 0$$

■解  $a(t) = t^{p_1}$ ,  $b(t) = t^{p_2}$ ,  $c(t) = t^{p_3}$  が与えられたとすると、Einstein 方程式は以下の式に書き換えられる。

$$p_1 p_2 + p_2 p_3 + p_3 p_1 = 0 \tag{2.1}$$

$$p_2(p_2 - 1) + p_3(p_3 - 1) + p_2 p_3 = 0 \tag{2.2}$$

$$p_3(p_3 - 1) + p_1(p_1 - 1) + p_3 p_1 = 0 \tag{2.3}$$

$$p_1(p_1 - 1) + p_2(p_2 - 1) + p_1 p_2 = 0 \tag{2.4}$$

式 (2.2) より

$$(p_2 + p_3)^2 - p_2 p_3 - (p_2 + p_3) = 0$$

が成り立つ。ここで、式 (2.1) より

$$p_2 p_3 = -p_1(p_2 + p_3)$$

を代入して

$$(p_2 + p_3)^2 + p_1(p_2 + p_3) - (p_2 + p_3) = 0$$

よって

$$(p_2 + p_3)(p_1 + p_2 + p_3 - 1) = 0$$

が成り立つ。式 (2.3), (2.4) についても同様であるから、Einstein 方程式は次式で言い換えられる。

$$p_1 p_2 + p_2 p_3 + p_3 p_1 = 0$$

$$(p_2 + p_3)(p_1 + p_2 + p_3 - 1) = 0$$

$$(p_3 + p_1)(p_1 + p_2 + p_3 - 1) = 0$$

$$(p_1 + p_2)(p_1 + p_2 + p_3 - 1) = 0$$

ここで、場合分けを行う。

- $p_1 + p_2 + p_3 = 1$  のとき

$$p_1^2 + p_2^2 + p_3^2 = (p_1 + p_2 + p_3)^2 - 2(p_1 p_2 + p_2 p_3 + p_3 p_1) = 1$$

- $p_1 + p_2 + p_3 \neq 1$  のとき

$$p_2 + p_3 = 0, p_3 + p_1 = 0, p_1 + p_2 = 0$$

$$\therefore p_1 = p_2 = p_3 = 0$$

以上より、解は点

$$p_1 = p_2 = p_3 = 0$$

あるいは平面と球面の交わり

$$p_1 + p_2 + p_3 = 1$$

$$p_1^2 + p_2^2 + p_3^2 = 1$$

である。

■分かること 対称性などから計量の形がわかれば、Einstein 方程式から計量を具体的に導くことができる。